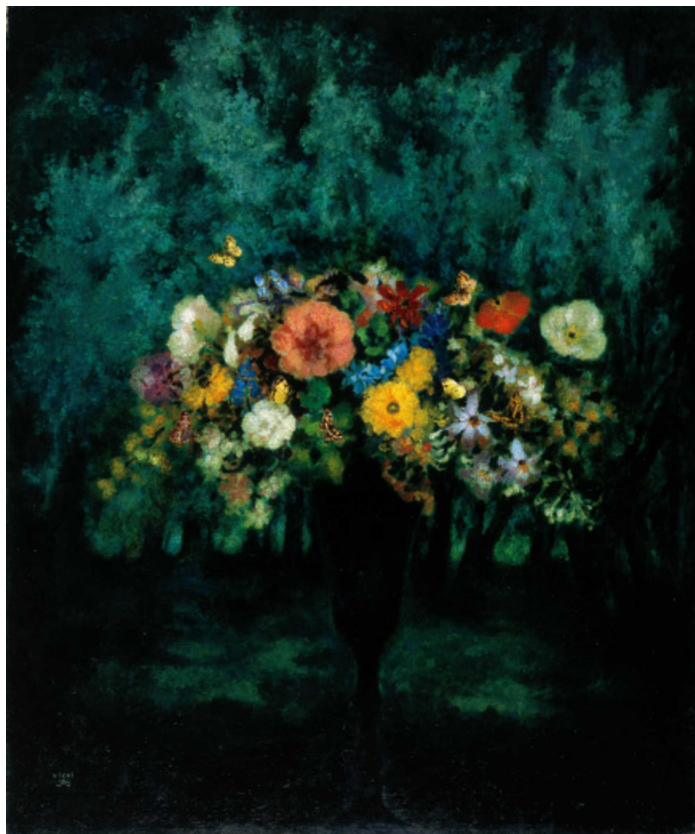


平成28年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



「森と花」

画面の手前、中央には花瓶に活けられた色とりどりの花束が配置され、背景には透き通った緑の森が広がっている。花に誘われた蝶たちがまるで遊んでいるかのようには舞っている。なんとも透明感のある絵だ。1966年、鷹山58歳の時の作品「森と花」である。「じつ」と絵と向き合うと、不思議とその絵の放つ清浄な空気に包み込まれてしまう。そのような感覚はこの絵に限ったものではない。鷹山作品を目の前にすると、各々の絵が放つ空気に包まれるのだ。いったいこの感覚はどこから生まれるのだろうか。

その答えとなるヒントが「ランプ」にあった。鷹山はランプのコレクターとしても知られている。ただただガラスが好きでたまらない気持ちでコレクションに結晶したという。鷹山自身がランプについて次のように語っている。

「私の絵がほかの方とちよつと違うなど、もし感じとつていただければ、その違うなにかはガラスの光の有無だと申し上げたいのです。私は誰の目にも透明に写る絵を描こうと思つているわけ。これは別にガラスを描くということではなくどんなに絵具を厚く塗つても、ガラスのような透明な色彩と感覚を表現できたらと」

「なるほど。」私は思わずそう口に出してしまった。ランプと絵がここで結びついてくるとは。作品が持つ透明感はこちらからくるのだ。ランプのコレクションは大小合わせて1,500点程だという。その一つ一つデザインも違えば、ガラスの色・形も違う。それぞれが放つ光が違ってくる。しかしどの灯りも人々を優しく照らしてくれる。

鷹山の作品にも同じことが言えるのではないだろうか。その作品だけが放つ空気・光がある。それは絵を見る人によつても感じ方は違うかもしれないが、清澄な空気で包み込まれるその感覚は、多くの人に感じていただけるのではないだろうか。

ランプを愛した鷹山だからこそ描ける透明感・光がある。是非一度、鷹山がつくり出す清澄な世界に浸ってみてはいかがでしょう。

学芸員 遠藤未奈子

平成28年度第2回研修旅行
「箱根アート巡りの旅」
 貸切バスで参加者の希望する
 美術館を巡りながら鑑賞する箱
 根アートの旅。お二人より紀行
 文をお寄せ頂きましたのでご紹介
 します。

「箱根アート巡りの旅」に

参加して

五所川原市 伊東美紀子

箱根と言えば温泉と駅伝という私のイメージを変える旅となりました。新幹線、バスと乗り継ぎ、箱根海賊船ピクトリーでの芦ノ湖遊覧。生憎の天気で富士山を見ることはできませんでしたが、芦ノ湖の秋風に吹かれて色づき始めた景色を楽しみました。

成川美術館、ポーラ美術館では学芸員の方に三十分程、作品や画家に



成川美術館前で記念写真
 館長の成川實様より、参加者全員
 に「堀文子色紙画」がプレゼントされま
 した。ありがとうございました。

成川美術館
 金川業務部長より解説



ついでに解説していただいたので、漫然とながめると、少くなく、少しは視点絞って鑑賞することができたと思います。成川美術館では、日本画の特徴と現代の画家、新しい日本画について知ることができました。ポーラ美術館では、ルソー、フジタ、アジェの関係性が興味深く、それぞれの作品を比べながら見るのができました。レオナルド・フジタの「小さな職人達」にはユーモアを感じるとともに彼の職人に対する敬意を感じました。今回は欲張り過ぎて、じっくり鑑賞できなくて残念でしたが、次回からは少しは予習して自分なりに視点を絞って参加したいと思えます。でも、なごやかな雰囲気での会食、千条の滝（ちすじのたき）までの朝の散歩、超駆け足鑑賞となってしまう「星の王子様ミュージアム」、「ラリック美術館」、「ガラスの森美術館」、「彫刻の森美術館」・・・楽しい二泊三日の旅でした。箱根は温泉、駅伝だけではなく、芸術の町でもあります。

「箱根アート巡りの旅」に

参加して

野辺地町 佐々木令子

今回は富士山の見える箱根の**美術館**に行きたいという念願が叶い参加した旅行でした。

心地良い風を受けながら巡る海賊船での芦ノ湖周遊。そして憧れの成川美術館到着。しかし、残念ながら富士山は雲の中、それでも富士山の和菓子を食べながら、最後まであそこに見えはらずとパンフと同じ景色を目に焼きつけた。又、小笠原元の色鮮やかな「奥秋」「水ヶ原」に目を奪われ、山本丘人、堀文子達の繊細な色使いの絵に魅せられた。

二日目早朝は、箱根三名滝の一つ「千条の滝」でオゾンをいっぱい吸って気持ちよく各々の美術館巡りへ。一館目のガラスの森美術館。日の光に輝き出すクリスマスツリーやその回廊に迎えられるお庭散策。馬頭琴による草原情歌に「スーホの白い馬」を思い出していた。

二館目は星の王子様ミュージアムのサンテグジュペリの小惑星に迎えられる。星の王子様は高度で、物語に入りにくいというイメージを私は持っていた。しかし、



ポーラ美術館展示室前にて

様々な展示を見て回り、作者の生き方等に理解が深まったことや出版年が一九四三年と自分の生年と同年代ということで身近さを覚えたりした。次は参加者全員で国立公園の中ですっぽり包み込まれるように建っているポーラ美術館で昼食。ルソーやフジタの作品を鑑賞。



ポーラ美術館
 山崎学芸員より解説

最後は東京ドーム1.5倍という彫刻の森美術館。涙が溢れていた。「嘆きの天使」「ハイツ」「巨人の像」「乙女の像として知られている高村光太郎の作品が「みちのく」と題してそこにあった。ピカソ館では、彼の多彩な作品を鑑賞。

三日目はフリータイム。迎賓館を見学したが、国、公賓を迎える館は豪華絢爛だった。

旅行中の夜は又楽しく、ライトアップされた東京タワーに感動したり、ゲームをしたり、思いがけず、その昔、関わりがあった人達だったということを知ったりで、本当に楽しく充実した一時でした。

皆様、本当にありがとうございました。

☆ご希望の研修旅行先を事務局までお寄せ下さい。

草乃しずかの世界展

ひと針に祈りをこめて40年

Report

青森朝日放送株式会社との共催による本展は11月6日(日)、58日間の会期を無事に終了しました。来館されたお客様には「感動した」「こんなに素敵な刺繍は初めて見ました」と大変喜んでいただき、2度3度来館されるお客様がとて多い印象でした。繊細な線、柔らかく優しい色使い。不思議な心が「ホッ」と穏やかになる草乃先生の作品。まさに「草乃しずかの世界」に魅了された方も多いのではないのでしょうか。

◇9/9(土) 開催式・レセプション

開催式・レセプションには草乃先生ご本人がご出席してくださいました。



◇10月9日(日) 特別記念講演会



八戸学院短期大学 客員教授の三村三千代先生による講演会を行いました。草乃先生が紫式部と人生を語り合いながら制作した源氏物語の作品の前で、「源氏物語の女性たち」をテーマに、お話してくださいました。一見、古典文学というとなしそうなイメージがありますが、とても分かりやすく、時折ユーモアも交えながら講演してくださいました。講演会を聞いて改めて作品と向き合うと、草乃先生がそのひと針に込めた思いがより強く伝わってくるようでした。

◇ギャラリートーク&サイン会



期間中に、草乃先生によるギャラリートークとサイン会を2回行いました。ご本人による解説は大変貴重で、参加されたお客様からは感嘆の声が起っていました。また、サイン会は、草乃先生がお客様一

人ひとりと写真を撮り、会話をしながら行われ、終始和やかな雰囲気になっていました。草乃先生、素敵な時間をありがとうございました。



◇5,000人目セレモニー



▲11月1日に「草乃しずかの世界展」の入館者が5,000人を達成しました。5,000人目のお客様となったのは青森市からお越しの木村さん(中央)です。旦那様とお友達と一緒にお越し下さいました。

◇10/2 お呈茶の会

▼10/2 お呈茶の会を開催しました。美しい日本刺繍とともに、美味しいお茶とお菓子をご用意しました。



開館以来総入館者数

50万人 達成

平成6年8月1日の開館から22年を経て、10月17日に鷹山宇一記念美術館の入館者数が50万人を達成しました。

50万人目の来館者となったのは、十和田市からお越しの森サダさんです。「びっくりしたけど、とてもうれ

しい」と大変喜んでいただきました。何度か美術館には足を運んでくださっているようで、「これからも楽しみたい」とお話してくださいました。今回50万人目のお客様をお迎えすることができたのは、これまで美術館を支え、応援してくださった皆様のおかげです。これからも、皆様に喜んでいただける展覧会を開催できるようにスタッフ一同頑張っております。



▲50万人目のお客様。十和田市からお越しの森サダさん。(中央) 新谷理事長と鷹山館長から花束と図録を贈りました。

鷹山賞受賞作品



【中学生の部】「仲間」
山端瑠花さん（三本木高等学校附属中学校 1年）



【小学生の部】「つよいぞ
ヘラクレスオオカブト」
川端陸斗くん（三沢市立岡三沢小学校 1年）

青森県内の小中学生に作品を公募した絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」は、鷹山宇一の画業を顕彰するとともに、「子どもたちの感性は風土の中で培われる」との精神の下、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験とおおし豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを体験できることを願って開催し、今年で第16回展を迎えました。

応募総数は64団体から599点。その中から、入賞27点、入選46点が選ばれました。

第16回鷹山賞児童作品展

1/22(日)まで開催中



～ 授賞式の様子 ～



▲ドキドキの授賞式。受賞された皆さん、本当におめでとうございます！そして応募してくれた皆さん、ありがとうございました。



11/12 (土) 入賞者授賞式

11月12日(土)には、「入賞者授賞式」が行われました。栄えある入賞に輝いた27名を讃えて行われた授賞式では、多くの来賓、保護者、学校関係者の方々が見守る中、入賞者一人ひとりに賞状と副賞が手渡されました。

受賞された皆さんは緊張した面持ちでしたが、自分の名前が呼ばれると「はいっ」と元気に返事をして、賞状を受け取っていました。

12月10日鷹山宇一先生記念日

遊蝶記



2016年も残すところあと僅かなり、鷹山宇一先生を偲ぶ「遊蝶記」も17回目を数えました。

1999年10月25日、画家としての人生を全うし、鷹山宇一先生は永眠されました。

「遊蝶」は鷹山先生の代名詞的作品名「遊蝶・花」から、「記」は「記憶」するの「記」でいつまでも忘れないと願いを持って「遊蝶記」と命名されています。

先生は生前、湿っぽいのが大の苦手で、家族と一緒に過ごすお誕生日を大変楽しみにしていたといいます。それで当館では、鷹山先生のお誕生日、12月10日を記念日と定め、「遊蝶記」を開催しております。

鷹山先生

生に思いを馳せながら、ハッピーバースデーの歌をみんな



なで歌い、ろうそくの火を吹き消して、お誕生日をお祝いしました。鷹山先生を偲ぶとともに、参加された皆様には今年1年を振り返り、新しい新年への抱負を一言ずつ頂きました。終始笑顔に包まれた和やかな会となり、鷹山先生もきっと喜んでくれたのではないかと思います。

2017年が皆様にとりまして、良き1年となりますよう、心から祈念しております。



▲皆さんに今年1年の振り返り、来年の抱負を一言頂きました。



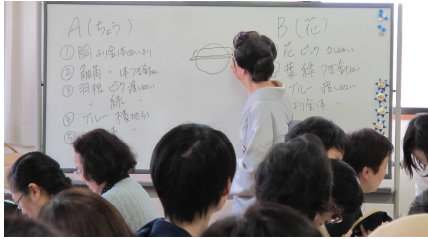
▲正午過ぎから行われた「遊蝶記」。お集まりいただいた皆さんで記念撮影。

草乃先生の事務所のスタッフの方々が、テーブル毎に指導致りました。皆さんは真剣に刺繍に取り組み時々「すみません!!」とスタッフ方々を呼ぶ声があちこちから聞こえていました。



▲ 工房内を回り参加者の様子を見ては足を止め、指導していただきました。

ホワイトボードを使い説明をする草乃先生。



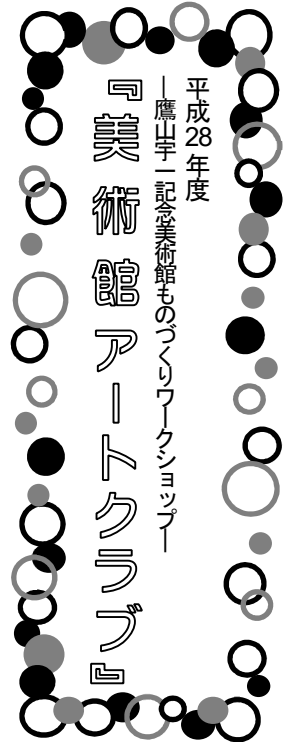
各テーブルごとで写真を撮った後最後に記念撮影しました。先ほどまでの真剣な顔とうって変わって、満面の笑みで講習会を終える事が出来ました。



特別展 草乃しずかの世界展
—ひと針に祈りをこめて40年—

◆◆◆講習会◆◆◆◆◆
コンパクトミラー作り

○「草乃しずかの世界展」会期中に行われた講習会の様子をご紹介します。
10月23日(日)に草乃しずか先生をお迎えしてコンパクトミラー作りを開催いたしました。2種類の図案から一つ選び刺繍をしてコンパクトを完成させるといった内容です。草乃先生から直接教みて頂けることあり、定員30名のところ35名の方から申し込みを頂きました。多の方を受け入れたという先生の意向で申込者全員参加となりました。
日本刺繍の作品を見て、皆さんも繊細で時間がかかるものと思われた様子で、ひとすら針を動かすし、説明に耳を傾ける姿が見受けられ、それだけに完成した時の喜びは大きいものがありました。皆さんひとりひとりに声をかけ指導して下さった草乃先生、スタッフの方々に本当にありがとうございました。



平成28年度
—鷹山亭—記念美術館ものづくりワークショップ
『美術館アートクラブ』

「美術館アートクラブ」の活動を、紹介いたします。



◆9月19日(月)は「菱刺し」です。スタッフ1名を含む5名の方が参加しました。

日本刺繍の展覧会開催中でしたので、南部地方の伝統刺繍である菱刺しを体験して頂きました。方眼紙に図案を写してから刺しました。津軽地方の刺し子「ぎん刺し」との色や形の違いを語る佐

伯知美先生の声に耳を傾けながら夢中になって手を動かしていました。2時間という短い時間でしたが、集中して体験した皆さんお疲れ様でした。



◆10月16日(日)は「カードに刺繍」です。スタッフを含め4名の方が参加しました。

10月ですので図案はもちろんハロウィンです！しかも刺繍と聞いたら布にするものと思いませんでしょうか、紙のカード

に刺繍をしました。トレーシングペーパーに図案を写し、輪郭を刺繍します。カードの糸を通したい間隔のところ針で穴を開けて、その穴に刺繍しかわいいカードの完成です。



◆11月26日(土)・12月3日(土)は全2回の「年賀状木版画」です。

スタッフ2名を含む7名の方が参加しました。講師は藤谷英雄先生です。「掘り進み版画」を体験しました。版木は一枚使用します。まずはハガキの色を残す部分だけを彫り、1色目のインクで刷ります。

次に1色目の色を残したい部分のみを彫り、2色目のインクで刷ります。2色目の色を残したい部分のみを彫り、3色目のインクで刷ります。このように彫っては刷りを繰り返して作品を完成させます。実際にやってみるとどこを彫るべきなのか、どの色から刷ると重なり合う部分の色がきれいに出来るのか、皆さん悩みながらでしたが楽しい版画教室でした。



美術館日誌

10月

- ▼2日(日) 草乃しずか展お昼茶
- ▼3日(月) 特別展「釣り吉三平展」 打合せ
- ▼4日(火) 渡辺貞一作品寄贈者
中井様(夫妻)来館
- ▼5日(水) ワークショップ「木版画」
打合せ(藤谷先生・佐伯講師)
- ▼7日(金) つがる保険生協五中支部
30名来館
- ▼9日(日) 特別展記念講演会
「源氏物語の女性たち」
講師 三村三千代 先生
七彩会
- ▼12日(水) 十和田西高等学校 67名来館
- ▼15日(水) 七彩会
- ▼16日(日) ワークショップ「菱刺し」
佐伯 知美講師

- ▼17日(月) 開館50万人目入館者セレモニー
青森古文書の会 49名来館
- ▼19日(水) 自動ドア点検
- ▼21日(金) 文化芸術を活かした
推進フォーラム出席(館長)
- ▼23日(日) 草乃しずか展ワークショップ
講師 草乃しずか先生
- ▼24日(月) 「戸」のサミット各首长来館
- ▼27日(木) 九州・沖縄観光業者説明会出席
(館長)
- ▼27日(木) 28日(金) 防火管理者講習
青年の家(遠藤・織川)



▲草乃しずか展最初のお客様



▲未来への飛翔

11月

- ▼1日(火) 草乃しずか展5000人目セレモニー
天間東小学校ワークショップ打合せ
(織川)
- ▼3日(木) 蝶標本整理
- ▼4日(金) 北地区図工部講演(館長)
職員健康診断
- ▼6日(日) 草乃しずか展終了
- ▼7日(月) 町内老健施設招待日
第16回鷹山賞展示用ボード取付
- ▼8日(火) 草乃しずか展作品撤去
- ▼9日(水) 第16回鷹山賞展示替
蝶標本整理
- ▼10日(木) 第16回鷹山賞展示替え
静岡出張(館長)
- ▼11日(金) 第16回鷹山賞展示替え
文化財パトロール
- ▼12日(土) 第16回鷹山賞児童作品展授賞式
- ▼13日(日) 第16回鷹山賞児童作品展開催
- ▼14日(月) 休館日
- ▼15日(火) ルドゥーテ展打合せ
(ローズカントリー田栗様)
- ▼16日(水) 駐車場説明会
館長・遠藤・織川・江刺家
(役場・七戸物産協会・美術館)
- ▼18日(金) F会議出席(館長)
- ▼21日(月) 休館日
- ▼22日(火) 私学審議会出席(館長)
- ▼23日(水) 蝶標本整理
- ▼24日(木) 七戸小学校 2・4年生
82名来館
- ▼25日(金) 3館連携ぐれつとバスツアー
40名来館(遠藤)
- ▼26日(土) ワークショップ打合せ
(藤谷先生・織川)
- ▼26日(土) ワークショップ
「木版画年賀状①」
講師 藤谷 芳雄先生

- ▼16日(水) 駐車場説明会
- ▼18日(金) F会議出席(館長)
- ▼21日(月) 休館日
- ▼22日(火) 私学審議会出席(館長)
- ▼23日(水) 蝶標本整理
- ▼24日(木) 七戸小学校 2・4年生
82名来館
- ▼25日(金) 3館連携ぐれつとバスツアー
40名来館(遠藤)
- ▼26日(土) ワークショップ
「木版画年賀状①」
講師 藤谷 芳雄先生

12月

- ▼27日(日) 縄文フォーラム出席(館長)
七彩会
- ▼28日(月) 休館日
- ▼29日(火) セコム点検
- ▼30日(水) 蝶標本整理
- ▼3日(土) ワークショップ
「木版画で年賀状②」
講師 藤谷 芳雄先生
- ▼5日(月) 休館日
- ▼6日(火) 東奥日報社福井透氏葬儀参列館長
- ▼7日(水) ・8日(木) ・9日(金)
城南小学校1～6年生 来館
- ▼8日(木) 蝶標本整理
東京出張(館長)
- ▼10日(土) 第17回遊蝶記
天間東小学校ワークショップ(織川)
- ▼12日(月) 休館日
- ▼13日(火) 県事業報告説明会(成田)
消防点検(中央消防署)
- ▼15日(木) 全国美術館会議小規模館研究部会
石神の丘美術館(遠藤)
- ▼16日(金) 岩手県美打合せ
(對馬・遠藤)
- ▼17日(土) 七彩会
- ▼19日(月) ・26日(月) 休館日
- ▼29日(木) 平成29年1月2日(月)
年末年始休暇



▲ 第17回遊蝶記念写真



▲ 鷹山賞を受賞した孫の川端陸斗君の絵を見るために北海道から来館して下さいました。



▶ 鷹山先生のアトリエを見学している七戸小学校2年生の皆さん

年末年始休館のお知らせ
 本年も残すところ数日となりました。
 年末年始休館は、
 12月29日(木)～1月2日(日)
 となっております。
 1月3日(火)から通常通り
 開館致します。
 新年もどうぞよろしく
 お願い申し上げます。



★美術館アートクラブからお知らせ★
 1月から3月のワークショップの日程が第四土曜日に変更になりました。
 1月28日、2月25日、3月25日
 1月はバスタイル画を予定しております。
 申し込み・問い合わせは美術館まで
 ※日曜日、内容は変更となる場合がございます。

彫刻家鈴木正治の
作品を訪ねてⅣ
——青森市内&浅虫温泉——

十和田市 小川辰子

鈴木正治の作品を訪ね、今号では青森市の浅虫温泉と市内にある作品を紹介します。

まず浅虫温泉の作品ですが、1983年(63歳)、鈴木さんは浅虫町内会の依頼で、同年7月にオープンする県営浅虫水族館の記念モニュメントとして「遊泳の輪」(写真①)の制作に着手します。高さ2.5m、幅2mの御影石を使用し、台座には地元産の久栗坂石を用いて、三ヶ月かけて制作したこの野外彫刻は大海原を泳ぐ魚を表現したもので、鈴木さんは「中央の直径約80cmの穴から沖合に浮かぶ湯ノ島



① 遊泳の輪

が望めるように工夫した」と語っていたそうです。大きな石彫でありながら、とても温かみを感じさせる作品で、鈴木さんの代表的な作品の一つと言えるでしょう。

この浅虫温泉では2000年から3回続いた「彫刻シンポジウム『浅虫』」で制作された木彫も多数見ることが出来ます。浅虫海浜公園には「デラレナイ」、南部屋・海扇閣には木彫の他、正面玄関上部に氏の作品としては珍しいステンレスレリーフが掲げられています。辰巳館には「イチカバチカ」(写真②)、道の駅「ゆくさ浅虫」の駐車場にも「デラレナイ」が設置されています。いずれも一本の太い木から彫り、木の中に球が入っていて、狭い空間の中で動くという不思議な造形で、見る者を楽しませてくれます。



② イチカバチカ

また、辰巳館には吹き抜けのホールに木彫、水墨画、版画などがたくさん飾られ、さらに浴衣には鈴木さんがデザインした「金魚ねぶた」(少年と少女) (写真③)が染められていて、とても可愛いです。



③ 金魚ねぶた

続いて、鈴木さんの本拠地である青森市内には多くの優れた作品がありました。青森県総合社会教育センター

④ わ



ながっている造形で、鈴木さんが好んでいた『不思議』を感じます。青い森公園の「思い出の像」(石彫、写真⑤)は新町小学校の卒業生たちの寄付金によって、その跡地に設置したもので、入学したばかりの男の子と女の子が仲良く手をつなぎ、腕を振り上げ、希望に胸を膨らませて元気に通学する姿を実にうまく表現しています。



⑤ 思い出の像

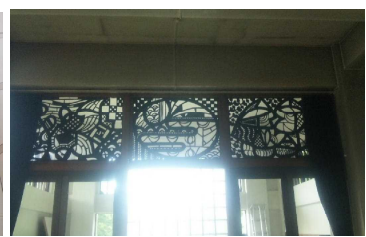
また、蓮心寺の欄間(写真⑥)は非常に美しい透かし彫りの作品です。雲谷地区の芙蓉会病院では、石彫「三楽」や墨絵「十和田湖と八甲田山」(写真⑦)をはじめ、優れた大作がたくさんあり、美術館のように楽しめます。この病院の前身である三楽病院に

「わ」(石彫、Iで紹介)は二種類の石で作られた輪が知恵の輪のように組みまわれ、青森県森林博物館「わ」(木彫・第6展示室「森を育てる」(写真④)は一本の木から丹念に彫り進められた輪と輪とが繋がった造りです。

また、おきな屋佃店では、小品ながら、たくさんの石彫・木彫・墨絵等を気軽に



⑦ 十和田湖と八甲田山



⑥ 蓮心寺欄間



⑧ 地球

若い頃は野内川河畔の青天井のアトリエで川の石を磨き、後には沢山(さわやま)地区にアトリエを構え、朝夕2本しかないバスで通い、ここでも多くの作品が生まれました。ここには岩手町石彫シンポジウムで制作された石彫「地球」(写真⑧)が運ばれており、見学することが出来ます。次号は、その岩手町での出会いと仕事・作品を訪ねます。

素描集を携えて

八戸市 照井壽一

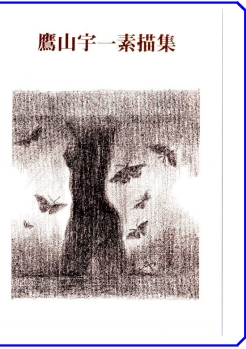
鷹山宇一画集と素描集に八戸地方の風景を描いた作品がないだろうかと思つて調べたところ画集には無かつたが「鷹山宇一素描集」(発行日:1999年7月8日)には、「鮫海岸 鷹山」、「八戸港」(制作年:2作品とも1959年)と題したデッサンが掲載されていた。

早速、カメラと素描集を持って11月下旬に鮫町に出かけ、蕪島周辺を散策し描かれた場所を探した。それらしき所はあったが具体的な決めはないので特定するに至っていない。特定出来ないことは残念だったが、画伯の作品のなかに八戸市の景色を描いたデッサンがあったことは嬉しい事だった。

画集に掲載されている「十和田湖 奥入瀬子ノ口大瀧」、「奥入瀬溪流・白布の滝」は、久しく訪れていないので、春になったらなら焼山から子の口まで、明治の文人・大町桂月が「住まば



「鷹山宇一の世界」発売中
・一冊 2000円+消費税
・申込先 鷹山宇一記念美術館



鷹山宇一素描集
「鷹山宇一素描集」発売中
発行(有)システム工房
冊数:1000円+消費税
申込先:鷹山宇一記念美術館

日の本 遊ばば十和田 歩きや奥入瀬三里半」と表現したおおよそ14キロメートルの奥入瀬溪流沿いの遊歩道を画集の景色を尋ねながら、森林浴を兼ねてのんびりゆつくり歩きたいと思つている。



○蕪島:高さ19m、周囲800m。島の頂上に蕪島神社が鎮座。(現在再建中。2015年11月5日未明全焼。)

参考資料
「鷹山宇一画集」、「鷹山宇一素描集」、八戸市観光パンフレット・その他

新規会員入会お誘いのお願いと 友の会会員登録更新のお願い

平成28年も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新しい年も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。なお、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円
特典 3枚。会員証提示により入館料2割引

○特別会員

(個人・法人) 年会費 1万円
特典 一般会員特典に加えて

○賛助会員

(個人・法人) 年会費 2万円
特典 一般会員特典に加えて

- ◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。
- ① 一般会員特典により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
 - ② 新規加入の方に画集1冊贈呈
 - ③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

◎お知らせ とお願ひ

★会費の納入は随時受け付けておりますが、平成28年10月1日〜29年3月31日迄の間に新規会員となった方は平成30年3月31日までの会費となります。
新規会員入会のお誘い宜しくお願ひ申し上げます。

編集後記

★皆様からの研修旅行記等、投稿を頂き会報第85号完成。感謝。
来たるべき年も友の会の継続と発展のためにご指導、ご協力、宜しくお願ひ申し上げます。
2017年、会員皆様にとつてより良い年でありますように。
(照井壽一)